

令和7年度 京都府立工業高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)実施段階

学校経営方針(中期経営目標)	7年度の成果と課題	学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 本校「校訓」と「教育目標」を根幹とし、高度技術化社会・国際化時代に対応した工業教育を推進し、国家及び社会の有為な形成者としての人間を育成する。</p> <p>(1) 学習指導の充実による学力の向上と進路を切り拓く指導を推進する。</p> <p>(2) 自他の生命や人権を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するなど豊かな心を育む指導を推進する。</p> <p>(3) 国際化、高度情報化、技術革新に対応した教育など社会の変化に対応する指導を推進する。</p> <p>2 小中学校及び大学、保護者、地域社会及び関係機関との連携を強化し、特色ある教育活動を展開することにより開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(1) コミュニティスクール(学校運営協議会)制度を生かし、目標やビジョンを、保護者や地域社会と共有する。</p> <p>(2) 企業・大学等との連携を深め、広く社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(3) 心身ともに健全な生徒を育てるため、学校のプラットフォーム機能を拡充させ、関係諸機関との連携強化を図る。</p> <p>(4) 特色ある教育活動を工夫し、その成果を積極的に情報発信することで「選ばれる工業高校」をめざす。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 落ち着いて学校生活を送ることができている。放課後を活用して学力向上、資格取得促進・検定に向けての学習を行い、今年度も難関資格、検定に合格者を出すことができた。</p> <p>(2) 学習指導については、教員の学習用ツール使用が定着化し、課題配信やアンケート実施など生徒個々の学習状況を把握することで個に応じた指導が行えた。また、全学科に対して本校教員がデータサイエンスの授業を行うことができた。さらに、採点ソフトの普及については普通教科に留まらず専門教科でも活用が広まっている。</p> <p>(3) 就職については、売り手市場もありさらに求人件数が増え、約2700件の求人があった。一次内定率は約96%と昨年度を上回った。進学については、学科、学年部及び進路指導部が一体となって指導を続け、総合型・学校推薦型の選抜で、国公立大学に6名が合格した。</p> <p>(4) 安全衛生管理とその教育の徹底を図り、実習や課外活動における大きな事故はなかった。また、第1学年対象の「性教育講演会」と第3学年対象の「生命のがん教育」を数年ぶりに実施できた。</p> <p>(5) コロナ禍前と同じように各種大会・コンテストが行われ、工業系では、京都府ロボット競技大会で5年ぶりに優勝、ロボットSIリーグで初めて入賞した。また、部活動においては、アーチェリー部がインターハイ・全国選抜大会に出場、卓球部が近畿大会に出場するなど活躍した。</p> <p>(6) ものづくり体験や出前授業については、今年度も近隣小中学校等に出向き生徒が主体となって交流することができた。また、昨年に続き、地元企業の業務改善につながるシステム開発を行い、生徒の企画力、設計、製作技術が向上した。さらに、台湾の学校やオーストラリアの学校と対面による国際交流を行い、英語での意思疎通や音楽・ものづくり交流を通して海外に興味を持たせることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 近年の資格検定の試験・検定料高額化等により、受検者数が減っている状況は変わらず、その中で全体の合格者数も減っている。来年度、生徒の学習内容や産業界の要望に合った資格検定の精選を進め、資格取得の合格者数アップをめざす。まずは、受検者数の増加を図り「分かりやすい授業」を展開していく必要がある。</p> <p>(2) 就職は、求人件数は大幅に増加しており売り手市場の傾向が続いている。進学は、国公立大学への合格者を出すなど一定の成果は見られるが、生徒が多様な進学先を選択できるよう、キャリア教育と併せて更なる対策を講じる必要がある。。</p> <p>(3) 登下校時の事故も数件あったことから、交通安全教育に一層力を入れる必要がある。また、いじめの防止・解消など、いのちを守る教育について引き続き充実させ人権意識を向上させる。部活動の加入率については仮入部の活用等で引き続き活性化に繋げたい。</p> <p>(4) 令和8年度選抜において志願者数は減少傾向で、定員割れは続いている。特に、志願者数の女子比率が少ない中、学科群新設等の広報活動について工夫を行い、女子生徒の希望者を増やすことに努めたい。</p>	<p>1 学力向上の取組</p> <p>(1) 基礎学力を定着させ、Society5.0の社会に応用できる知識・技術・技能・情報活用能力を獲得させる。</p> <p>(2) 新しい学習用ツールとICT機器の効果的な活用により、発達段階、学習段階に合わせた「わかりやすい授業」「わかる授業」づくりに取り組むことで個に応じた「学びの最適化」を図る。</p> <p>(3) 資格・検定受検者数を増やすとともにICT機器を活用し、合格率をアップさせる。</p> <p>(4) デジタル工作機器や仮想空間等を活用し、創造力・技術力の向上を図る。また、外部人材や資産の活用を促進し生徒の興味関心を引き出す。</p> <p>2 キャリア教育の充実</p> <p>(1) キャリアパスポートを活用するために各取組とリンクさせ、自らの将来を考える機会を増やす。</p> <p>(2) 企業や大学等との連携だけでなく学科や学校間の連携を深め、さらに効果的な職業教育の在り方を工夫・開発する。</p> <p>(3) 「3年間のキャリア学習計画」にともなう行事のブラッシュアップを図り、時代に即した組織的な進学・就職指導体制を再構築する。</p> <p>3 安心・安全の学校</p> <p>(1) マナーや規範意識を高め、いじめ等の問題行動を防止する。</p> <p>(2) 人権を尊重し、安心・安全な学校生活を保障する。</p> <p>(3) 部活動を活性化させ、部活動加入率を上げるとともに心身ともに健全な生徒の育成をめざす。</p> <p>(4) 自他のいのちを守る教育の充実・徹底を図る。</p> <p>(5) 研修等により、新しい生徒指導提要の学習・理解をさらに進める。</p> <p>4 魅力ある学科づくり</p> <p>(1) 生徒が主体的に活動できる「おもしろまじめ」な人財育成に務める。</p> <p>(2) 課題研究、授業との連携を図り、教育活動の中でのSDGs(持続可能な開発目標)を明確化させる。</p> <p>(3) 学校の魅力や学科の違いをわかりやすくアピールするため、学科ごとに課外での地域連携を活発化する。</p> <p>(4) 小中学生向けの体験活動を強化し、高い目的意識を持った生徒募集につなげる。</p> <p>(5) 工業の魅力が伝わるよう、男女共同参画型の広報活動を行う。</p>

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価		成果と課題
学力向上	基礎学力の定着 知識・技術・技能獲得・情報活用能力	普通教科間及び専門教科間の連携を密にするとともに、教科横断的な視点で個々の生徒の状況を把握・共有し、基礎学力向上に重点を置いた授業を実践する。 修得した知識・技能を実験や実習、課題研究で活用し、課題解決に向けた探究的な学びを通じて、思考力・判断力・表現力を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 普通科と専門科が連携し、課題研究でも成果が出た。今後は教科間協力を広げ、体系的な連携を目指す。 普通教科の少人数授業で基礎力を育成し、学習ツールも浸透した。今後は限られた人員で指導法をさらに工夫する。 金属3Dプリンタの活用や外部人材を活用したデジタル映像技術に関する講習を実施した。
	段階に応じた「わかりやすい」「わかる授業」づくり、「学びの最適化」	習熟度授業や少人数制授業、チームティーチングを実施することで個別の学習支援を実践する。 学習用ツール（ロイロノート、すらら）を活用した授業をすべての教科で実践し、個別最適な学びを推進する。	A	A	
	資格・検定合格者数増加	放課後の活用のほか授業との連携を図ることにより、基本的な資格・検定の合格率を上げる。 基本的な資格取得やキャリア教育と連携し、難関資格取得へ向けたモチベーションの向上を図る。	B	B	
	工作機器の活用 創造力・技術力向上	デジタル工作機器を活用することで工作機械やロボットなどの動きをPC上でシミュレーション検証し質の高いものづくりや3DCG・画像処理・VRゴーグルなどによる仮想空間を用いた新たな価値のあるものを作り出す技術力を向上させる。	A	A	
	キャリア教育の充実	キャリアパスポート活用など将来を考える機会の増加 企業・大学連携と効果的な職業教育 キャリア学習計画のブラッシュアップ 組織的な進学・就職指導体制の再構築	キャリアパスポートの作成・活用が効果的に行えるようなICT機器の使い方を模索し、情報を共有する。 学校行事や進路学習の中で自らを知り、将来を考えられる取組を意図的に設ける。 インターンシップ、企業・大学等の見学や説明会の実施、課題研究等で地元機関と継続して連携する。 大学入試説明会への参加や大学訪問を行い、情報収集することで新しい入試制度を効果的に活用した進学指導を行う。 学年や学科・教科と更に連携して、学校行事や進路学習等のキャリア計画をたてる。また、その計画にあわせたキャリアパスポートの作成・活用計画もたてる。 学校全体の進路行事だけでなく学年や学科ごとの進路行事も学校組織として進路指導できるように計画し、実施する。 ICT機器を取り入れ、効果的な進路指導・進路学習を構築する。	A	
安心・安全の学校づくり	マナー規範意識向上といじめ等の防止	生徒会および生徒会各種委員会が具体的な取り組みの企画と実施をする。 毎月の問題行動調査とともに生徒観察や情報収集を行うとともに、教員・生徒のいじめに係る意識の向上に対する具体的取組をする。	A	A	
	人権尊重と安心・安全な学校	各学年で人権学習を実施し、自他の生命や人権を尊重する精神を涵養する。 部長訓話、HR指導、HR掲示等で貴重品管理や自転車の施錠等の指導を行い、防犯意識を高める。	A	A	
	部活動の活性化・加入率アップ	仮入部の形を取り入れ、早期入部のきっかけを促す。また、部活紹介の質を上げることで、入部意欲を高める。さらに、熱中症等に配慮した対策を行う。	B	B	
	自他のいのちを守る教育の充実・徹底	コロナ禍が一定落ち着いた後も従来のさまざまな感染症に対する啓発活動を継続し、安心安全な教育環境の整備に努める。 講演会等を中心とした性教育やさまざまなHR学習を通していのちの大切さと尊厳を学び、自らと周囲のいのちを守る教育の徹底を図る。	A	A	
	生徒指導提要の理解・実践	具体的な生徒指導事例をもとに教員研修を行い、生徒指導提要の下、本校における生徒指導の在り方を確立する。	A	A	
教育及び広報活動の推進	おもしろまじめな学校	生徒にとっての「おもしろいこと（実践的な学び、資格取得、部活動等）」を「まじめ」に続けられるサポートを行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 資格検定取得や部活動の実績を内外にアピールすることで生徒をサポートできた。 SDGsの17のゴールを確認する場面が少なく、学習内容の紐付けは不十分であった。 学科のコンセプトを明確化し広報資料を充実させることができた。 教員向けの説明会や中学生向けの体験学習を従来の形式に戻し、また個別進路相談会の回数を増やし広報活動を活発にできた。
	SDGsの課題研究・自習との連携	SDGsの17ゴールと学習内容を紐づけ、生徒に意識させながら学習に取り組ませる。答えのない課題に取り組む場面で、その課題が各ゴールとどのように関連しているかを意識しながら実践し、評価段階でSDGsとの関連を明確に表現する。	A	A	
	学科アピールのための地域連携の活発化	今後必要とされる「力」を明確にし、各学科で「どのような力が身に付くか」、その力を「将来どのように活用できるか」を確認しながら授業を進める。また、各学科の特徴を活かし地域や企業との連携を通して、授業で身に付けた力を発揮し社会貢献に取り組む。	A	A	
	目的意識を持った生徒の募集	各種説明会を実施すると同時に、動画配信も活用し工業高校の良さを常に発信する。 体験型の説明会を実施し、入学希望者が可能な限り自己の興味に沿った学科を選択できるように工夫する。	A	A	
	工業の魅力が伝わる広報活動	ホームページや動画配信等を活用して、「ものづくり」のおもしろさや資格取得・部活動・行事等にまじめに頑張る生徒や学校の雰囲気を発信する。	A	A	
学校関係者評価委員会による評価	寄付活用による設備・学力向上、女子生徒の活躍発信、ICT機器の適切活用、生徒が多様な価値観に触れる機会の充実、そして高校生のメンタルケアの強化について意見が寄せられた。また、工業高校の学びが幅広い進路で活かせる点の発信強化やSNS活用の継続、募集戦略や入試制度改革に合わせた教育課程の刷新など、今後に向けた提案が示された。				
次年度に向けた改善の方向性	普通科と専門学科の連携や少人数授業、先端機器を活用した学習環境は成果を上げており、今後は教科・学科間連携の体系化と指導法の工夫を進める。また、キャリアパスポート活用の充実や進路学習の強化、人権教育の継続により生徒支援を深める。加えて、令和9年度の学科改編に向けた学科群・学科コンセプトの明確化や広報活動を女子生徒にも伝わりやすい形に再構築し、女子が安心して挑戦できる学びや魅力を積極的に発信することで志願者数増加を図る。				